

京子のつぶやき

みんなで作り上げると楽しさ倍増

安保徹先生と川嶋朗先生の講演会が終わりました。会場は1,100人の熱気に包まれました。「講演会を成功させる会」では毎月の話し合いの前に、心と身体をほぐす目的で笑いヨガを取り入れていました。とても好評で、誰かの「講演会の前に参加者の人たちと笑いヨガができたらいいよね」との提案でした。参加者が乗ってこなかったらどうするとのチョット心配もありましたがとんでもない、斉藤さんのリードで川嶋先生までも飛び入り参加して頂き1,100人の笑いヨガ、圧巻な情景でした。免疫力が高まるオーラが見えるようでした。安保先生は3度目の講演会になります。安保先生は免疫学の第一人者と言われる人ですがとても偉ぶらなく、再開できた喜びに心からお久しぶりですと親しく感じてしまいます。川嶋先生は初めての講演会でした。物事をはっきり言う先生なので厳しい先生かなと思っていましたが予想に反し、講演会後のご苦労さん会ではザルツブルグ音楽祭の紹介を、ワルツをイメージしたのか踊りだし、オーストリアに行きましよう誘って下さり「はい行きます」と思わず速答、陶板浴からはお客様2人と私とで3人参加することになりました。これは川嶋先生が患者さんを連れてラジウム温泉坑道療法を体験する企画で毎年行っている、「オーストリア医療施設視察旅行」だそうです。

お二人のお話を聞いて、病気は自分でつくるもの、治すのも自分、自分の生き方が問われている、他人任せの治療が日本の医療費を緊迫させている自覚を持たなくてはと思います。しかしこれは患者側の知識不足だけなのではないでしょうかね、安保先生、川嶋先生。どちらにしても折角この世に生を受けた以上は自分の免疫力を信じ人生を全うし、自分を大切に次世代につなげたいものです。

講演会当日に合わせなんと陶板浴の本も刷り上がり会場で皆さんにお披露目することができました。これってすごいと思いませんか。2~3年前湯島清水坂クリニックの橋本社長さんから「竹屋さんで本作りませんか」と言われたことがきっかけでした。竹屋陶板浴は今年10年を迎えます。ルポライターの中町ゆかりさんが陶板浴に取材に通って下さり、これまで体験談に寄せてくれた方々や、待合室でのお客様との会話から体験談をまとめてくれました。安保先生のインタビューや北柏ファミリークリニックの澁谷先生、東京中央メディカルクリニックの白川先生たちの声なども載っています。これまで、お客様から「陶板浴を薦めたいが自分ではその良さがうまく説明できない」との声が多々ありました。是非ご活用下さい。それがなんとびっくり、こんなことがあるのと思うくらいです。この本「陶板浴のすごい免疫力」とアマゾンで検索した方から、本が2,782円になっていると言うのです。定価が1,300+税の本がですよ。私には知らない世界が多すぎます。陶板浴内にはまだ在庫がありますのでお声かけ下さい。会長が陶板浴を始める際私に「ガンの人が元気になれる場所を作りたい、これはボランティアだから」と言って私の許可を得ようとしたことが今ではなつかしく思い出されます。